

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390102246		
法人名	株式会社サンブレラ		
事業所名	グループホームパラソル操南(第1ユニット)		
所在地	岡山県岡山市中区藤崎136-26		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフは各種研修へ積極的に参加しています。外部研修としては、認知症介護実践研修に受講可能なスタッフから順番に講習し認知症への理解、現場での実践へと繋げています。内部研修としては、担当制とし毎月担当者が責任をもって行うことで全体の知識の向上に繋がるよう実施しています。また、行事においてもコロナ禍でさまざまな制限もありますが、施設内で全体行事を月に1回以上開催の他にピアノやカラオケ機器を使った音楽療法を始めました。面会も制限付きではありますが可能な限り行っています。ご家族様には些細な事も電話で連絡を怠らない等関係性を大切にしています。月一回ニュースレター発行(パラソル通信)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390102246-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 2 月 8 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム長は、経営理念にある「ホスピタリティ・マインド」を心に刻み、日々の介護に精進している。ホーム長は、一人ひとりとゆったり関わりたいとの思いから、職員に対しての平素からのコミュニケーションを大切にし、職員の負担やストレスを軽減している。職員が協力的で、風通しの良い職場になり、ゆとりのあるケアができています。利用者が落ち着いて生活するために様々な取り組みを実践している。音楽療法では、ホーム長が弾くピアノ曲が人気の的となっている。園芸療法では、花壇を底上げして、車イスの方でも水やりができたり、花柄を摘んだり、どんな状態でも参加ができるように工夫している。回想療法で、馴染みのアンティーク家具を通じて、昔話や思い出話をする事によって、利用者が生き生きと過ごす時間が手にとるようになる。毎日のティータイムでは、明るく楽しい会話が弾んでいる様子が窺えた。リビングの窓から一面に広がる水田を見ることで、青々とした稲、黄色く穂をもたげた季節を感じ、今は、刈り取られた土色の田んぼの自然を醍醐味として、みる事が利用者の癒しとなっている。それが職員の介護へのモチベーションの向上に繋がり、法人が掲げる理念にさらに近づこうと、心から取り組んでいた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会的役割は認識している。理念の共有はしているが、内容を理解し、実践しているかと言う意味ではもう少しだと思います。今後も定期的に会議の中で共有していきたいと思っています。	ホスピタリティ・マインドを高められるように日々の介護に取り組んでいる。会議の際に、理念に触れるようにしている。利用者一人ひとりの思いや要望を叶えられるよう個別ケアを行い、できるだけ自由な時間を過ごして頂けるように工夫している。	理念を振り返って、職員間で意見を出し合ってみてはいかがでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入はしていませんが、運営推進会議に参加していただいて事業所の活動を公開しています。コロナ禍で交流は不十分となっていますが中学校の体育祭や操南祭の観覧、夏のラジオ体操等再び参加できる日が来れば参加したいです。	文化祭で中学生が作成した大きなひまわりの作品の前で写真を撮り、利用者の微笑む顔が窺えた。消防署の方が訪問され、有意義な防災訓練も催された。目の前が通学路なので、登下校の時に子供たちへ挨拶をすると、元氣よく返事が返ってくる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方へは発信しています。家族様へは電話連絡や毎月のニュースレター発信で様子報告するとともに認知症の症状説明と理解を深めて頂けるようお話をさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の会議では、施設での出来事や行事、事故報告などの報告を行っています。報告後には、参加頂いている皆様から意見をしっかりと頂いています。評価機関の活用等行いながらサービス向上に活かしています。(コロナ禍の為、書面会議)	町内会長、民生委員、包括、各ユニットの家族の方が参加し、現在は書面会議にて開催している。コロナ関連、利用者や職員、施設内での行事、ヒヤリハットや事故報告を行った。集まった意見は、ホーム長がまとめて回答を返信している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者指導課の担当者との連携は不十分であるが制度の事など疑問点があればすぐに相談しています。地域包括センター担当者へは運営推進会議へ参加して頂き連携を図っています。認定更新の際には、具体的に様子を伝えるようにしています。	市町村への窓口はホーム長が対応していて、何でも話せる関係が築かれている。基本は電話での対応で、コロナ対策としてマスクを提供して頂いたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていますが内側の扉は解放しています。今後も身体拘束廃止には力をいれていきます。定期的な勉強会を開き、知識を習得しています。今後も継続していきます。	身体拘束はしていない。昨年度の評価実施後から、スピーチロックについても取り入れ、言葉の置き換えができるようになり、職員が利用者に対してより優しく接する場が生まれた。虐待と身体拘束の研修に参加したことで、より知識を深められた。内部は対面式、外部はWEBで研修を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内にて勉強会を定期的に行い、身体的、心理的虐待についての理解に努めています。不適切なケアについては、その場で話しをするようにしています。入居者がストレスを感じるような発言がある時にも、対応方法を話し合います。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について個々に知っている者も居るが、学ぶ機会を内部研修にて実施。入居者様、ご家族様には必要に応じて情報提供しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所で出来る事出来ないことは明確になっている。入居者様やご家族に不安や疑問点があれば十分な説明を行い、理解、納得して頂きます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で入居者様の事を把握し、情報共有しています。運営推進会議や電話、文書等を使い素早く対応しています。	家族の要望をホーム長が把握することで、何かあれば随時対応することができている。利用者からの要望は、タブレットやノートに記載することで、職員間で情報共有ができている。ハンバーガーが食べたいという方がいて、一緒にドライブスルーでの買い物したら喜んで頂けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度、自己評価と共に個別面接を行い、話を聴く機会を持っています。メンタルヘルスとして随時スタッフの話を聞くように努めています。必要な事項に関してはスタッフ会議にて話し合うようにしています。	ホーム長は、職員の負担やストレスを軽減してほしいとの思いから、話しかけることが多く、日常会話からも意見を聴取している。職員からは、前向きな意見が多く、耳を貸すことで何でも語れる場となり、職員間の風通しが良いことが、利用者へのケアにも繋がりはじめた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時の手当や昇給など目標をもてるような仕組みを作ってくれています。残業は特別な業務以外ほぼ無い。有給休暇も取得しやすい環境である。就業規則はいつでも見れる状態になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては業務に支障の無いようスタッフに合った研修を勧め、参加しスタッフ会議等で報告共有しています。内部研修も行い、スキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで同業者との交流も図れています。運営推進会議においても地域内の同業者とも意見交換出来ています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のアセスメントの段階で調整した内容は各スタッフへ共有出来ています。実際、暮らし始めて不安に思われる事や困っている事項が起こった場合、随時アセスメントを行い、タブレット端末や申し送りノートを使い共有しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望は勿論の事、サービス利用を考えるまでに至る経緯をじっくりと傾聴します。その上で、施設の役割をお話させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番必要としているケアに関してはプランにあげると共に、入所直後は不安も強く出るため特に、スタッフ間で情報共有を密に行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや菜園作りの時は、生活の知恵や技を教えて貰っています。時にはスタッフも生活の悩み事を相談し助言してもらったり、励ましを受けたりもします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日やイベントの情報をお知らせし、ホームへ気軽に来て頂ける機会を設けています。来られた際には必ず、情報交換を行うことをスタッフ一同周知しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が緩和していけば、ご友人がいつでも訪問していただける環境、こちらからも訪問できるようにしていきたいです。	職員が休み明けに出勤したら「久しぶり」と声を掛けられるくらい心待ちにしている利用者もいて、すっかり馴染みの関係となっている。窓の外に広がる水田を眺めることで、季節の移り変わりを感じることができている。馴染みのマイカップを使用することで、リラックスしてティータイムを楽しんで過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないような席の配置にしています。イベントなどを通してご利用者様同士の良好な関係が築けるよう考えています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者へ情報を詳しく伝え、環境や暮らしが継続出来る様に連携しています。今後も同様に努めていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、ご本人様やご家族から情報を収集し、ケアプランに反映させています。特に食べたい物に関しては何よりも要望が多く、希望に沿うよう努めています。新規入居の際には生活歴や好み等大切にしています。	入居時に生活歴をご本人やご家族から聞き取っている。食に対する希望が多く、スイカや大手饅頭、ハンバーガーが食べたいという要望が多く、叶えた。発語が少ない方には、家族からの聞き取りはもちろんのこと、反応を見たり、仕草や表情から読み取ったりして意向を把握している。	利用者の思いや意向の把握を継続して支援してほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	細かい生活歴の把握はできていませんが、問題が発生した際には必ずご家族への報告と、これまでの生活歴を聴取する事で問題解決に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝食時間の遅い方はその方に合ったペースで過ごして頂いています。スタッフ間の申し送りにてその日一日の様子を共有しながら、次に出来ることへ繋げていきます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との話し合いは勿論のこと、スタッフ間では個々に情報収集し、ユニット会議内にてカンファレンスを行い決定している。随時、ご家族様の要望は聴取しています。	入居時にケアマネを中心に暫定プランを作成し、その後は随時見直しをしている。介護計画を作成する際には、家族や本人の希望を聞き取っている。ケアプランは中期を3ヶ月、長期を6ヶ月で作成している。援助の方針も、できるだけ本人の生活に寄り添ったプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPadを使つての記録になっているため、重要な申し送りも一括で両ユニットの閲覧をする事が出来、情報共有出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一つの例として、提携医以外の受診にご家族様が無理な場合でも、スタッフが同行しています。これからの時々生まれるニーズに対応していきたいと考えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で自肅中地域のボランティアグループの訪問や公民館、ふれあいセンターのイベント参加、図書館の利用を定期的に行っています。特に中学校での文化祭や体育祭への招待をして頂き、交流をはかれています。コロナ禍で自肅中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医と隣合せの好立地にあり、ご家族様の安心の一つにもなっています。主治医からは必要な科への紹介状も対応して下さい。必要時には必ずご家族様への相談話し合いは持たれています。	近隣にある病院が協力医となっていて、全員が協力医に転医されている。月2回の往診があり、ドクターとの関係も良好で、会うと利用者が笑顔になり、馴染みの関係が形成されている。他科受診は、基本家族が連れていくが、職員が連れて行く場合もある。週1回、訪問歯科の口腔ケアもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、身体状態の把握、健康管理、個別的な処置やリハビリを行い、記録を残す事で情報を共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院になった場合、早急に情報提供を文面で行い、足りない部分では、ソーシャルワーカーと電話やファックスでの情報を共有しています。退院に向けての話し合いも、病院へ出向き、話し合いを持っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には必ず話しをさせていただきます。(重説内)後に、入院などで状態悪化した折に、ご家族の意向を聴取させて頂いています。(ケアプランに反映)段階的に、主治医とご家族とスタッフが集まりその時々での支援方法を決定していきます。	看取りは実施していて、先月にも看取りがあった。かかりつけ医と連携したところ一時回復し3ヶ月も延命された。家族や本人の意向を聞き、家族の気持ちに寄り添ったケアが行えている。デスカンファレンスも実施していて、家族との話し合いの場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々には対応出来るスタッフもいますが、訓練としては実施できていません。知識として会議の中で急変時の対応として話し合いを行っています。今後、訓練を兼ねての研修を行っていく予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に2回(昼、夜設定)行っています。非常用食料や備品の準備はこれからです。また水害による垂直避難訓練も行っています。	年2回昼夜・火災想定で実施し、2階へ逃げる垂直避難も行った。ハザードマップ、連絡網は事務所に提示している。消防署の訪問もあり、消火器を使った訓練も催した。備蓄は、本社で一括管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時に馴れ合いの話し方になる事もあるが、基本、本人の尊厳を意識し、スタッフ間においても注意しあえる関係作りをしています。	呼称は苗字に「さん」付け。夫婦の方は、下の名前で「さん」付けだが、場合によっては「お父さん」と呼ぶこともある。何かあった場合は、ホーム長がスタッフに対して注意することで馴れ合いにならないように気をつけている。居室へ入るときはノックをして、「入ってもいいですか」と言葉掛けをしてから入室している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が出にくい方へは、カードを使うようにして飲み物などを選んでいただいています。洋服も2着から選んで頂けるよう準備し、視覚で判断できるよう工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての方には出来ていませんが、特に朝寝坊するかたもおられ、スケジュールの変更も臨機応変に行っています。集団ケアでなく個別ケアを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れ等がある時は、他の入居者様に気づかれないように声掛け、誘導行っています。外出の際には、お気に入りの衣類や小物を身に付けるよう声掛け介助行います。定期的な出張美容の提供をしています。(毎月第1土曜日)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、食べたい料理の調査を行い、管理栄養士監修の下に献立を立て調理する。その際にも、出来る事は一緒に行い、食べる事が楽しみになるようこれからも工夫していきます。	3食ケイタリング。ホーム長が技能実習生に一から教えた味噌汁が利用者に好評。管理栄養士が月1回訪問し、嗜好調査をして食事を決めているが、お寿司になることが多い。配膳、下膳の手伝いをする利用者もいる。庭でとれた果物を収穫して、食したこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面ではバランスのとれた食事を提供出来ている。食べる量の調整や形態はそれぞれ個別に対応しています。行事食に関しては、会社内の管理栄養士の下、バランスの良い食事を提供させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けと磨き残しのチェックを行い、歯科衛生士による口腔内衛生指導を定期的に行っています。(毎週月曜日)		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、パターンの把握をスタッフ間で共有しています。特に排便に関してはトイレに座って頂くよう食後の誘導に気を付けています。	排泄介助の際には「お手伝いさせて頂いてもよろしいでしょうか」と言葉掛けをしている。オシメで入居された方に、トイレ誘導を繰り返したら、トイレに行くことが増えて失敗が減った。排泄失敗時には、「みんな一緒だから気にしなくていいよ」と自尊心を傷つけないような言葉掛けをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂っていただけるよう飲み物の種類を多くしています。特に牛乳が飲める方には起床時に提供させて頂いています。薬に頼っていることが多いですが、身体を動かすなどの運動も取り入れています。薬剤師との連携行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間はこちらで決めているが、気分によって入りたくない日などは、日にちをずらすなどの対応を随時行っています。入浴を少しでも楽しんで頂けるよう、季節の変わり目にはかんきつ湯(ゆず湯、ミカン湯等)を行っています。	入浴は週2回。壁のタイルが気に入って、入浴を心待ちにしている温泉好きの利用者もいた。リフト浴を導入したことで、利用者の安全、職員の負担軽減につながった。拒否する方には、風呂場に誘導し、「お風呂に入ってから帰りましょう」と言葉を掛ける工夫が見られた。季節湯の提供もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝や就寝時間は個々に合わせて対応しています。なるべく晴れた日には、ベランダに出たり、外へ散歩に出掛けて日に当たるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の薬の内容を把握していないが、薬剤情報は各ファイルに閉じて、いつでも閲覧できるようにしている。提携薬局の薬剤師と連携し薬の事故防止に力を入れています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理好きな方、洗濯物をたたむのが得意な方、植木への水やりをしたい方、口腔体操の指揮をとって下さる方それぞれの役割が来ています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で自粛中だが、ドライブやホーム周辺の散歩にて気分転換を図っています。	ドライブがてら春にはつつじ、秋にはコスモスを見に行った。毎日外に出たいという方とは、駐車場の散歩をすると笑みがこぼれている。外出支援に代わる、月4回のオンラインエクササイズや講師を招いての音楽レクも取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている方もおられますが、それを使う訳ではなさそうで、安心感と思われまます。お金をお店で支払う事も今は無いです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご友人やご家族様からの年賀状や手紙がよく届き、とても、楽しみにされています。ご希望があった際は事業所からお電話のご支援もさせていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口にはいつも緑が有り、ホッとする空間になっていると思います。南向きの大きな窓から見える景色はとても開放感が有り、広く感じられると思います。お天気がいい日はよくテラスに出られ外の空気を感じていただいております。お花も育てている。	リビングの窓からは、日差しが入って開放的で明るく、広大な水田が一望できるので季節を味わうことができている。利用者から「ここでの生活は楽しいです」との言葉が聞けた。10時からのティータイムでは会話が飛び交い、塗り絵や新聞を読んで自分らしく過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごしたり、2階に上がっておしゃべりしたりとそれぞれ思うように過ごしています。スタッフはその場の雰囲気を読み取り声掛け付き添いを行います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇の持ち込みをされている方やご家族様が居心地を考え、家具や椅子を持ち込まれて配置して下さっています。	表札が利用者の生活歴に見合ったものの絵で表示されている。昔、自分が描いた女優の絵を飾ることで、自分らしい居室となっていた。男性化粧品や健康食品を持ち込んでオシャレを楽しんだり、健康維持に気をつけたりもしている。職員が支援することで、携帯電話を使用し続けることができていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	オープンキッチン、お年寄りの背丈に合わせた低い高さになっており、部屋内部では安全に立ち上がりや歩行ができる様に、介助バーや家具の配置を工夫し、自立できる環境を作っています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390102246		
法人名	株式会社サンブレラ		
事業所名	グループホームパラソル操南(第2ユニット)		
所在地	岡山県岡山市中区藤崎136-26		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフは各種研修へ積極的に参加しています。外部研修としては、認知症介護実践研修に受講可能なスタッフから順番に講習し認知症への理解、現場での実践へと繋げています。内部研修としては、担当制とし毎月担当者が責任をもって行うことで全体の知識の向上に繋がるよう実施しています。また、行事においてもコロナ禍でさまざまな制限もありますが、施設内で全体行事を月に1回以上開催の他にピアノやカラオケ機器を使った音楽療法を始めました。面会も制限付きではありますが可能な限り行っています。ご家族様には些細な事も電話で連絡を怠らない等関係性を大切にしています。月一回ニュースレター発行(パラソル通信)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390102246-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 2 月 8 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム長は、経営理念にある「ホスピタリティ・マインド」を心に刻み、日々の介護に精進している。ホーム長は、一人ひとりとゆったり関わりたいとの思いから、職員に対しての平素からのコミュニケーションを大切にし、職員の負担やストレスを軽減している。職員が協力的で、風通しの良い職場になり、ゆとりのあるケアができています。利用者が落ち着いて生活するために様々な取り組みを実践している。音楽療法では、ホーム長が弾くピアノ曲が人気の的となっている。園芸療法では、花壇を底上げして、車イスの方でも水やりができたり、花柄を摘んだり、どんな状態でも参加ができるように工夫している。回想療法で、馴染みのアンティーク家具を通じて、昔話や思い出話をする事によって、利用者が生き生きと過ごす時間が手にとるようになる。毎日のティータイムでは、明るく楽しい会話が弾んでいる様子が窺えた。リビングの窓から一面に広がる水田を見ることで、青々とした稲、黄色く穂をもたげた季節を感じ、今は、刈り取られた土色の田んぼの自然を醍醐味として、みる事が利用者の癒しとなっている。それが職員の介護へのモチベーションの向上に繋がり、法人が掲げる理念にさらに近づこうと、心から取り組んでいた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会的役割は認識している。理念の共有はしているが、内容を理解し、実践しているかと言う意味ではもう少しだと思います。今後も定期的に会議の中で共有していきたいと思います。	ホスピタリティ・マインドを高められるように日々の介護に取り組んでいる。会議の際に、理念に触れるようにしている。利用者一人ひとりの思いや要望を叶えられるよう個別ケアを行い、できるだけ自由な時間を過ごして頂けるように工夫している。	理念を振り返って、職員間で意見を出し合ってみてはいかがでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入はしていませんが、運営推進会議に参加していただいて事業所の活動を公開しています。コロナ禍で交流は不十分となっていますが中学校の体育祭や操南祭の観覧、夏のラジオ体操等再び参加できる日が来れば参加したいです。	文化祭で中学生が作成した大きなひまわりの作品の前で写真を撮り、利用者の微笑む顔が窺えた。消防署の方が訪問され、有意義な防災訓練も催された。目の前が通学路なので、登下校の時に子供たちへ挨拶をすると、元氣よく返事が返ってくる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方へは発信しています。家族様へは電話連絡や毎月のニュースレター発信で様子報告するとともに認知症の症状説明と理解を深めて頂けるようお話をさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の会議では、施設での出来事や行事、事故報告などの報告を行っています。報告後には、参加頂いている皆様から意見をしっかりと頂いています。評価機関の活用等行いながらサービス向上に活かしています。(コロナ禍の為、書面会議)	町内会長、民生委員、包括、各ユニットの家族の方が参加し、現在は書面会議にて開催している。コロナ関連、利用者や職員、施設内での行事、ヒヤリハットや事故報告を行った。集まった意見は、ホーム長がまとめて回答を返信している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者指導課の担当者との連携は不十分であるが制度の事など疑問点があればすぐに相談しています。地域包括センター担当者へは運営推進会議へ参加して頂き連携を図っています。認定更新の際には、具体的に様子を伝えるようにしています。	市町村への窓口はホーム長が対応していて、何でも話せる関係が築かれている。基本は電話での対応で、コロナ対策としてマスクを提供して頂いたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階入り口の扉も常時施錠していません。今後も身体拘束廃止には力を入れていきます。定期的な勉強会を開き、知識を習得しています。今後も続けていきます。	身体拘束はしていない。昨年度の評価実施後から、スピーチロックについても取り入れ、言葉の置き換えができるようになり、職員が利用者に対してより優しく接する場が生まれた。虐待と身体拘束の研修に参加したことで、より知識を深められた。内部は対面式、外部はWEBで研修を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内にて勉強会を定期的に関き、身体的、心理的虐待についての理解に努めています。不適切なケアについては、その場で話しをするようにしています。入居者様がストレスを感じるような発言がある時にも、対応方法を話し合います。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について個々に知っている者も居るが、学ぶ機会を内部研修にて実施。入居者様、ご家族様には必要に応じて情報提供しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所で出来る事出来ないことは明確になっている。入居者様やご家族に不安や疑問点があれば十分な説明を行い、理解、納得して頂きます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で入居者様の事を把握し、情報共有しています。運営推進会議や電話、文書等を使い素早く対応しています。	家族の要望をホーム長が把握することで、何かあれば随時対応することができている。利用者からの要望は、タブレットやノートに記載することで、職員間で情報共有ができている。ハンバーガーが食べたいという方がいて、一緒にドライブスルーでの買い物をしたら喜んで頂けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度、自己評価と共に個別面接を行い、話しを聴く機会を持っています。必要な事項に関してはスタッフ会議にて話し合うようにしています。	ホーム長は、職員の負担やストレスを軽減してほしいとの思いから、話しかけることが多く、日常会話からも意見を聴取している。職員からは、前向きな意見が多く、耳を貸すことで何でも語れる場となり、職員間の風通しが良いことが、利用者へのケアにも繋がりはじめた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時の手当てや昇給など目標をもてるような仕組みを作ってくれています。残業は特別な業務以外ほぼ無い。有給休暇も取得しやすい環境である。就業規則はいつでも見れる状態になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては業務に支障の無いようスタッフに合った研修を勧め、参加しスタッフ会議等で報告共有しています。内部研修も行い、スキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで同業者との交流も図れています。運営推進会議においても地域内の同業者とも意見交換出来ています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のアセスメントの段階で調整した内容は各スタッフへ共有出来ています。実際、暮らし始めて不安に思われる事や困っている事項が起こった場合、随時アセスメントを行い、タブレット端末や申し送りノートを使い共有しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望は勿論の事、サービス利用を考えるまでに至る経緯をじっくりと傾聴します。その上で、施設の役割をお話させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番必要としているケアに関してはプランにあげると共に、入所直後は不安も強く出るため特に、スタッフ間で情報共有を密に行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや菜園作りの時は、生活の知恵や技を教えて貰っています。ご利用者様の家族に近い存在となれるよう、また過度な距離感になり過ぎぬよう意識しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日やイベントの情報をお知らせし、ホームへ気軽に来て頂ける機会を設けています。来られた際には必ず、情報交換を行うことをスタッフ一同周知しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が緩和していけば、ご友人がいつでも訪問していただける環境、こちらからも訪問できるようにしていきたいです。	職員が休み明けに出勤したら「久しぶり」と声を掛けられるくらい心待ちにしている利用者もいて、すっかり馴染みの関係となっている。窓の外に広がる水田を眺めることで、季節の移り変わりを感じることができている。馴染みのマイカップを使用することで、リラックスしてティータイムを楽しんで過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体行事は勿論の事、普段の生活の中でも席を移動し、一緒に洗濯物を畳んだり会話できるよう工夫しながら支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者へ情報を詳しく伝え、環境や暮らしが継続出来る様に連携しています。今後も同様に努めていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、ご本人様やご家族から情報を収集し、ケアプランに反映させています。特に食べたい物に関しては何よりも要望が多く、希望に沿うよう努めています。	入居時に生活歴をご本人やご家族から聞き取っている。食に対する希望が多く、スイカや大手饅頭、ハンバーガーが食べたいという要望が多く、叶えた。発語が少ない方には、家族からの聞き取りはもちろんのこと、反応を見たり、仕草や表情から読み取ったりして意向を把握している。	利用者の思いや意向の把握を継続して支援してほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	細かい生活歴の把握はできていませんが、問題が発生した際には必ずご家族への報告と、これまでの生活歴を聴取する事で問題解決に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝食時間の遅い方はその方に合ったペースで過ごして頂いています。スタッフ間の申し送りにてその日一日の様子を共有しながら、次に出来ることへ繋げていきます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との話し合いは勿論のこと、スタッフ間では個々に情報収集し、ユニット会議ない内にてカンファレンスを行い決定している。随時、ご家族様の要望は聴取しています。	入居時にケアマネを中心に暫定プランを作成し、その後は随時見直しをしている。介護計画を作成する際には、家族や本人の希望を聞き取っている。ケアプランは中期を3ヶ月、長期を6ヶ月で作成している。援助の方針も、できるだけ本人の生活に寄り添ったプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPadを使つての記録になっているため、重要な申し送りも一括で両ユニットの閲覧をする事が出来、情報共有出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一つの例として、提携医以外の受診にご家族様が無理な場合でも、スタッフが同行しています。これからの時々生まれるニーズに対応していきたいと考えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で自肅中地域のボランティアグループの訪問や公民館、ふれあいセンターのイベント参加、図書館の利用を定期的に行っています。特に中学校での文化祭や体育祭への招待をして頂き、交流をはかれています。コロナ禍で自肅中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医と隣合せの好立地にあり、ご家族様の安心の一つにもなっています。主治医からは必要な科への紹介状も対応して下さい。必要時には必ずご家族様への相談話し合いは持たれています。	近隣にある病院が協力医となっていて、全員が協力医に転医されている。月2回の往診があり、ドクターとの関係も良好で、会うと利用者が笑顔になり、馴染みの関係が形成されている。他科受診は、基本家族が連れていくが、職員が連れて行く場合もある。週1回、訪問歯科の口腔ケアもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、身体状態の把握、健康管理、個別的な処置やリハビリを行い、記録を残す事で情報を共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院になった場合、早急に情報提供を文面で行い、足りない部分では、ソーシャルワーカーと電話やファックスでの情報を共有しています。退院に向けての話し合いも、病院へ出向き、話し合いを持っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には必ず話しをさせていただきます。(重説内)後に、入院などで状態悪化した折に、ご家族の意向を聴取させて頂いています。(ケアプランに反映)段階的に、主治医とご家族とスタッフが集まりその時々での支援方法を決定していきます。	看取りは実施していて、先月にも看取りがあった。かかりつけ医と連携したところ一時回復し3ヶ月も延命された。家族や本人の意向を聞き、家族の気持ちに寄り添ったケアが行えている。デスカンファレンスも実施していて、家族との話し合いの場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々には対応出来るスタッフもいますが、訓練としては実施できていません。知識として会議の中で急変時の対応として話し合いを行っています。今後、訓練を兼ねての研修を行っていく予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に2回(昼、夜設定)行っています。非常用食料や備品の準備はこれからです。また水害による垂直避難訓練も行っています。	年2回昼夜・火災想定で実施し、2階へ逃げる垂直避難も行った。ハザードマップ、連絡網は事務所に提示している。消防署の訪問もあり、消火器を使った訓練も催した。備蓄は、本社で一括管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時に馴れ合いの話し方になる事もあるが、基本、本人の尊厳を意識し、スタッフ間においても注意しあえる関係作りをしています。	呼称は苗字に「さん」付け。夫婦の方は、下の名前で「さん」付けだが、場合によっては「お父さん」と呼ぶこともある。何かあった場合は、ホーム長がスタッフに対して注意することで馴れ合いにならないように気をつけている。居室へ入るときはノックをして、「入ってもいいですか」と言葉掛けをしてから入室している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が出にくい方へは、カードを使うようにして飲み物などを選んでいただいています。洋服も2着から選んで頂けるよう準備し、視覚で判断できるよう工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての方には出来ていませんが、特に朝寝坊するかたもおられ、スケジュールの変更も臨機応変に行っています。集団ケアでなく個別ケアを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れ等がある時は、他の入居者様に気づかれないように声掛け、誘導行っています。外出の際には、お気に入りの衣類や小物を身に付けるよう声掛け介助行います。定期的な出張美容の提供をしています。(毎月第1土曜日)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、食べたい料理の調査を行い、管理栄養士監修の下に献立を立て調理する。その際にも、出来る事は一緒に行い、食べる事が楽しみになるようこれからも工夫していきます。	3食ケイタリング。ホーム長が技能実習生に一から教えた味噌汁が利用者に好評。管理栄養士が月1回訪問し、嗜好調査をして食事を決めているが、お寿司になることが多い。配膳、下膳の手伝いをする利用者もいる。庭でとれた果物を収穫して、食したこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面ではバランスのとれた食事を提供出来ている。食べる量の調整や形態はそれぞれ個別に対応しています。行事食に関しては、会社内の管理栄養士の下、バランスの良い食事を提供させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けと磨き残しのチェックを行い、歯科衛生士による口腔内衛生指導を定期的に行っています。(毎週月曜日)		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、パターンの把握をスタッフ間で共有しています。特に排便に関してはトイレに座って頂くよう食後の誘導に気を付けています。	排泄介助の際には「お手伝いさせて頂いてもよろしいでしょうか」と言葉掛けをしている。オシメで入居された方に、トイレ誘導を繰り返したら、トイレに行くことが増えて失敗が減った。排泄失敗時には、「みんな一緒だから気にしなくていいよ」と自尊心を傷つけないような言葉掛けをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂っていただけるよう飲み物の種類を多くしています。特に牛乳が飲める方には起床時に提供させて頂いています。薬に頼っていることが多いですが、身体を動かすなどの運動も取り入れています。薬剤師との連携行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間はこちらで決めているが、気分によって入りたくない日などは、日にちをずらすなどの対応を随時行っています。入浴を少しでも楽しんで頂けるよう、季節の変わり目にはかんきつ湯(ゆず湯、ミカン湯等)を行っています。	入浴は週2回。壁のタイルが気に入って、入浴を心待ちにしている温泉好きの利用者もいた。リフト浴を導入したことで、利用者の安全、職員の負担軽減につながった。拒否する方には、風呂場に誘導し、「お風呂に入ってから帰りましょう」と言葉を掛ける工夫が見られた。季節湯の提供もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝や就寝時間は個々に合わせて対応しています。なるべく晴れた日には、ベランダに出たり、外へ散歩に出掛けて日に当たるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の薬の内容を把握していないが、薬剤情報は各ファイルに閉じて、いつでも閲覧できるようにしている。提携薬局の薬剤師と連携し薬の事故防止に力を入れています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理好きな方、洗濯物をたたむのが得意な方、植木への水やりをしたい方、口腔体操の指揮をとって下さる方それぞれの役割が来ています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で自粛中だが、ドライブやホーム周辺の散歩にて気分転換を図っています。	ドライブがてら春にはつつじ、秋にはコスモスを見に行った。毎日外に出たいという方とは、駐車場の散歩をすると笑みがこぼれている。外出支援に代わる、月4回のオンラインエクササイズや講師を招いての音楽レクも取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている方もおられますが、それを使う訳ではなさそうで、安心感と思われまます。お金をお店で支払う事も今は無いです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方もおられ、毎日ご家族様へ定時に連絡されています。本人希望でこちらから電話を掛ける際には、介助させて頂きます。お手紙でのやり取りも時々あります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口にはいつも緑が有り、ホッとする空間になっていると思います。南向きの大きな窓から見える景色はとても開放感が有り、広く感じられると思います。お花も育てている。	リビングの窓からは、日差しが入って開放的で明るく、広大な水田が一望できるので季節を味わうことができている。利用者から「ここでの生活は楽しいです」との言葉が聞けた。10時からのティータイムでは会話が飛び交い、塗り絵や新聞を読んで自分らしく過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで横になりくつろがれたり、1階に降りて過ごされる時もあります。その都度支援させて頂きます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇の持ち込みをされている方やご家族様が居心地を考え、家具や椅子を持ち込まれて配置して下さいます。	表札が利用者の生活歴に見合ったものの絵で表示されている。昔、自分が描いた女優の絵を飾ることで、自分らしい居室となっていた。男性化粧品や健康食品を持ち込んでオシャレを楽しんだり、健康維持に気をつけたりもしている。職員が支援することで、携帯電話を使用し続けることができていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	オープンキッチン、お年寄りの背丈に合わせた低い高さになっており、部屋内部では安全に立ち上がりや歩行ができる様に、介助バーや家具の配置を工夫し、自立できる環境を作っています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない